

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ディスカバリースタジオ			
○保護者評価実施期間	2026年 1月 7日 ～ 2026年 1月 日23			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	66	(回答者数)	58
○従業者評価実施期間	2026年 1月 7日 ～ 2026年 1月 日23			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数)	4
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 1月 30日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	お子様の特性理解と受容を大切にした支援を行っている。	お子様一人ひとりの特性や気持ちを受け止め、安心して自分らしく過ごせる居場所作りを意識している。	お子様の変化や成長をより具体的に言語化し、支援の継続性に繋げていく。
2	個別ニーズに応じた環境設定と支援体制を整えている。	半個室やガラス張りの部屋を活用し、必要に応じて空間を区切ることで、集団活動と個別対応を柔軟に切り替えられる環境を整えている。	空間の使い方や支援方法について、振り返りを行い、より効果的な活用を検討していく。
3	スタッフ間の連携による活動プログラムの充実を図っている。	プログラム担当者の案をもとに、スタッフ間で意見交換や情報共有を行い、お子様のニーズに沿った内容となるよう改善を重ねている。	活動のねらいや支援意図を整理し、スタッフ全体で共通理解を深めていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	災害時対応・引き渡し方法の分かりやすさ。	災害時の避難場所や引き渡し方法について、保護者に十分伝わっていない部分がある。	災害時は、避難完了後に順次ご家族様へ現状共有を行う流れを整備している。避難訓練や研修の実施状況について発信を行っているが、今後は事前周知や説明の機会を増やし、より分かりやすい共有を行っていく必要がある。
2	送迎対応に対する理解の共有。	送迎の有無について、状況説明を行っているが、十分な理解につながっていない部分がある。	・自立支援の一つとして年齢や発達段階、公共交通機関利用の能力に応じて、保護者様と相談しながら自力通所を促している。 ・安全を十分に確保した中での送迎を行っており、場合によってはニーズにこたえられない状況が発生することを丁寧な説明を行い理解を得られるよう努める。
3			